

令和8年度

三好市立榛生小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数による個に応じた学習の充実を図る。
- 言語力を高める学習の充実を図る。
- 家庭と連携し家庭学習習慣の確立を図る。

校長

石丸 秀樹

学力向上推進員

近藤 猛恭

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や研究授業、教員からの報告等の機会を設け、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○基礎的な計算力や加減乗除の技能は向上した。漢字では、スモールステップによって少しずつ定着してきている。</p> <p>一●ケアレミスも見られるため、見直しの習慣や継続的な反復練習が引き続き必要である。</p> <p>○新聞を用いた読書、デジタル機器の活用増加によって、語彙力がアップした。</p> <p>一●文章を理解して問題に取り組みむ(読解力)はまだ不十分である。</p> <p>●全体として、知識・技能は蓄積されてきているものの、文章問題や生活場面への活用を含め、知識と課題解決を結び付ける段階には至っておらず、今後の課題である。</p>	<p>・基礎学力を土台にし、問題を覚えて解くだけでなく、使える形にする。</p> <p>一なぜ?を大切に自ら学び、考え、行動できる。</p> <p>(算数例)</p> <p>・基本的な読み書き計算などの技能を身につけ、活用することができる。</p> <p>・数の感覚をもち、なぜそのようになるかを理解できる。</p> <p>(国語例)</p> <p>・漢字学習では、類義語、対義語、慣用句を理解し、表現力や読解力の土台を養う。</p> <p>・本に親しむことで、語彙力を増やし、長い文章でも内容を理解できる。</p>	<p>「理解→反復→活用」のサイクルを循環できるようにする。</p> <p>①プリントやドリル、タブレット端末などを利用して学習する機会を設ける。</p> <p>②全校で1年間に1000冊本を読むことを目標とし、実践する。</p> <p>③辞書を引かせたり、文章を読んで大事だと思う箇所には線を引かせたりする。</p> <p>④反復練習をして基礎の定着、処理速度の向上を目指す。</p> <p>⑤授業内に前時の授業復習を組み入れ、記憶の強化、成功体験を積み重ねる。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○知識を生活に生かせる場面も少しずつ増えてきた。</p> <p>一●新たに得た知識を自分の言葉で説明することに困難さを示すこともある。</p> <p>○自分で考え行動することも徐々に増えている。</p> <p>一●他者の考えを理解したり、自分の意見を深めたりすることがまだ不十分である。</p> <p>●学習した知識を生かして考えたり、答えを導き出したことが難しく、「わからない」と諦めてしまうことが多い。そのため、自分の言葉で考えを発表することは消極的である。相手意識をもって筋道を立てて説明することが苦手である。</p>	<p>・根拠をもとに考え、適切に判断し、自分の考えを分かりやすく表現できる。</p> <p>一①事実や知識をもとに理由(なぜ?)を考えられる子。</p> <p>一②すぐに答えを求めず試行錯誤できる。</p> <p>(算数例)</p> <p>・公式や計算だけでなく、理由を考えて解く。</p> <p>・図や表、イラストを使って考えを整理できる。</p> <p>(国語例)</p> <p>・根拠をもって文章中から筆者の考えや登場人物の気持ちを読み取ることができる。</p> <p>・文章を読んで自分の考えを形成できる。</p> <p>・目的や相手に応じて適切に話することができる。</p>	<p>①なぜ?どうして?を問う発問をする。</p> <p>②ひとつの正解だけで終わらない課題設定にする。身につけた知識を用いて課題を解決できる学習活動を増やす。</p> <p>③ホワイトボードやタブレット端末を用いた発表や話し合い活動をさせる。(オンラインも含め)</p> <p>④全校での話し合い活動、集会、学級会などの活動を計画的に取り入れる。</p> <p>⑤ICT機器の効果的な活用方法について、ICT支援員とも連携して教職員の研修を深める。</p> <p>⑥表現力を育てる支援をする。(書く・話す活動を組み込む。伝え方のモデルを示すなど。)</p> <p>⑦「徳島版読解力」を生かして個々に応じた指導方法の工夫改善に努める。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習の型が決まることで主体的に学びに参加できる。</p> <p>一●手順が明確でないで集中力が続きにくく、意欲の継続が難しい。</p> <p>○午前中は比較的落ち着いて活動に参加できる。</p> <p>一●午後は学習への取組に波が見られる。</p> <p>●読書に親しむ子どもは増えてきているが、全体的に十分とは言えず、家庭での読書習慣の定着が課題である。</p> <p>●できない、わからないが授業内に出てくると、粘り強く取り組めない様子も見られる。</p>	<p>・自分から課題に向かい学び続けようとして行動できる。</p> <p>一①学習課題に進んで取り組み、学ぶ楽しさやできる喜びを感じ、自信をもつことができる。</p> <p>一②自分の学習状況を振り返り、自分の課題を見つけ解決することができる。また、自分で調整して課題解決を目指すことができる。</p> <p>(算数例)</p> <p>・数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶ。</p> <p>・筋道を立てて考え・説明できる。</p> <p>・仲間と学び合いながら、自分の考えを深める。</p> <p>(国語例)</p> <p>・文章を読み自分の考えを深める。</p> <p>・自分の考えを持ち、進んで表現する。</p>	<p>①児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>②毎時間のめあてやまとめの書き方等、板書やノート指導について工夫をする。</p> <p>③振り返りの時間などを設定し、自分の考えを表現できる場を意図的に設定する。(ふり返し用紙の活用)</p> <p>④タブレット端末などを活用し、自ら課題を見つけて学習に取り組む機会を設ける。</p> <p>⑤朝の活動に地域の方による読み聞かせや読書の時間を取り入れるなどして、読書に親しむ時間を継続的に設定する。</p> <p>⑥タブレットやマイシード、自主学習ノートの活用により主体的に復習に取り組めるようにする。</p>			